

うたごえ新聞

5 / 21
(1990年)
NO. 1304

THE SINGING VOICE OF JAPAN

日本のうたごえ全国協議会機関紙
うたごえ新聞社
〒169 東京都新宿区大久保2-16-36
☎ 03(209)0638 FAX 03(200)0105
振替口座 東京2-5631 毎週月曜日発行
1部120円・税4円(〒26円)・月480円・税15円(〒120円)



「チリは長い間の病気を回復して、今、元気な風を信じていることができます」。自由をとり戻す16年の闘い、その中で音楽でメッセージをつづけたアンヘル・パラ氏は言う。本紙既報のチリの音楽家アンヘル・パラ氏、4月末の来日以降、兵庫県三宮コンサートは各地から盛況の便りが届

く。そのあい間をぬいて音楽センター(東京)で、パラ氏に浜島康弘日本のうたごえ全国協議会幹事長が電話をつながった。通訳はアンヘル・パラ氏日本公演での共演者でもあるフォルコロレ・シンガーの八木啓代(のぶよ)さん。

浜島 今日チリの音楽のことで、直接お会いしてお話ができる、とても楽しみにしています。これまでのコンサートの印象はどうですか、アンヘル。各地のコンサートは、とてもあたたかく迎えていた、とてもいい印象を持っています。長い間、チリの新しい歌運動の代表者が日本に来ていなかったにもかかわらず。

それと私にとって大変うれしく、チリとどうにかしても、アシエンデ政権のころ、クーデターと、いろいろなこと、新しいチリの現状に関心を持って下さるとうれしいです。私たちに、とても大切なことは、民主主義を回復した今のチリ、これからのチリを考えると、

アンヘル・パラ氏 新しい歌を語る

ることが非常に大事だからです。この間もミゲル・リチャン(『戒厳令下チリ潜入記』の映画監督)ともそういう話をしました。

動の中で生まれた歌をいっつかうたっています。チリの新しい歌運動のそもそもの起り、そのきっかけをいいますと、

アンヘル それは、歌だけが突出したものではなく、映画、文学等すべての運動の高揚の中で、お互いに関連しながら育ってきたものです。もっと遡ると、いま今世紀の初めにルイス・エミリオ・レカバレンというチリ共産党の創立者でもありますが、このようにも彼は組合運動家、同時に芸術家でした。

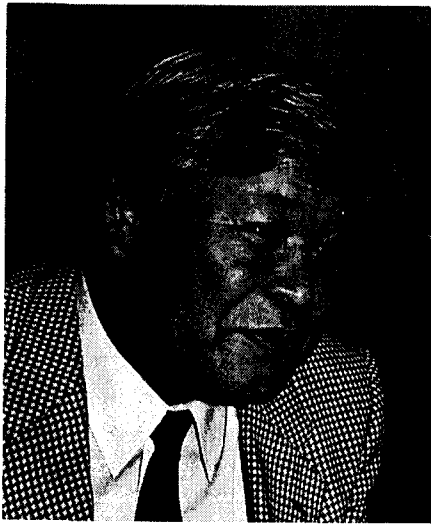
彼があちこちに組合をつくっていったのですが、その時に、小さなオケストラと演劇集団と機関紙を必ずつくったんです。こういう活動を通じてチリの若者たちに対して平和を望む気持ちや、進歩的な気持ち、あちこちの右よりの方にあつて、どうにか形づくられて

て、そういう土壌の上で、一九四八年から五〇年、母ピオレータ・パラがあらわれたんです。彼女は、頃、失なわれつつあった民俗音楽、民衆音楽を救うという目的があったわけなんです。

この母の活動というのは三つに分けられていて、一つは民俗音楽を拾い集めること、二つめは民俗音楽を外にむかって知らせる、第三には、それに基づいたものを自分で創っていく。そこに彼女の創造活動があったわけなんです。

彼女の創造活動は最初は個人的なセンチメンタルなものからだんだん社会的なものになっていくわけです。この政治性を持った歌が民衆に非常に大きなインパクトを与えていきました。

聞き手 浜島康弘 日本うたごえ全国協議会幹事長



浜島 僕たち日本のうたごえ運動も、チリの新しい歌運動も、

ふめんだい
「太陽はあが、血はひびきたたくまいて、労働者……」
風靡る五月、今年、国際メーデー百周年を迎えた。
☆ ☆ ☆

日本のうたごえは東京・夢の島で開かれた中央メーデーに、実行団体として加わり、他の音楽団体とともに、文化行事等に参加、「世界をつなげる花の輪」をはじめ、メーデー歌を五月の空にひびかせた。
☆ ☆ ☆

メーデーは一八八六年にアメリカの労働者が八時間労働を要求して示威運動にたちあがったのを起源に、一八八九年第二インターナショナル(国際社会主義者会議)の創立大会で、世界各地で挙行することを決定、翌九〇年五月一日をメーデーとして、世界各国で「八時間労働」の要求運動が展開されたのであった。
☆ ☆ ☆

「連合」の一部地方で、くりあげメーデーを四月にやると言う中で、MAY DAYの味を改めてしっかりととらえなおす必要があるのでは。
☆ ☆ ☆

話題はかわるが、この大型連休にうたごえは郷土合唱・教育、アコーディオンの全国講習会が開かれ、全国からあわせて三百名が参加した。それぞれ充実した三日間の感想多し。
☆ ☆ ☆

「連休に講習会でカンジメ」の声もあったが、混雑する行楽地への遊びと家族サービスです。連休のパターン、それでいいのかなの感あり。
(末)